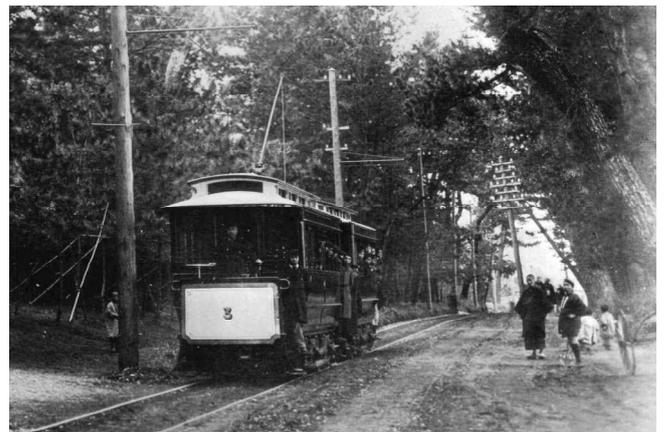


チンチン電車、国道を走る

～図書館所蔵写真から～

小田原駅前から板橋駅まで国道1号線を走っていた路面電車（市内電車）が廃止されたのは、ちょうど60年前の昭和31年（1956）のことです。この電車の前身は小田原馬車鉄道で、東海道線の鐵路が国府津まで敷かれたのをきっかけに、明治21年（1888）地元有志の起業家たちが実現させました。当時、東海道線は御殿場まわりで、小田原や箱根・熱海への足の確保目的でありました。まもなく、近代化に欠かせない電化事業に着手し、小田原電気鉄道と社名を変更、同33年（1900）に国府津～箱根湯本間の電車営業を開始します。神奈川県内では大師電気鉄道に次ぐ開業で、全国でも4番目の早さでした。

大正9年（1930）省線熱海線（現JR東海道線）が国府津～小田原間に開業すると、軌道を小田原駅前まで延長するとともに、競合する国府津～小田原町役場（現市民会館前）間を廃止しました。同12年の関東大震災では甚大な被害を受け、箱根の登山鉄道・ケーブルカーを含め、復旧するには1年半を要しました。大雄山鉄道（現伊豆箱根鉄道）・小田原急行鉄道（現小田急電鉄）が小田原に乗り入れ、さらに昭和9年（1934）に丹那トンネルの開通により熱海線が東海道本線となり、小田原は交通の要所、地域経済の中心地として発展を遂げていきます。



旧東海道の酒匂松原を走る電車（開業当初）

その間、昭和3年に社名を箱根登山鉄道と改め、同10年には登山線を小田原まで乗り入れます。それを機に、路面電車の営業区間は小田原～箱根板橋間2.4kmとなりますが、町内電車は市街地住民の足として生き残り、同15年の市制施行とともに市内電車（市電）と呼ばれることとなります。このころの市内電車は、舗装されていない国道1号線の道路の南側、民家の軒下すれすれを走っていました。

世の中が経済成長の波に乗り始めると同時に、急速な自動車社会化（モータリゼーション）が加速し、バイパス道路や高速道路の計画を待たずに、各所で国道1号線の交通渋滞を引き起こし始めます。小田原市内では電車が、その原因の1つと見なされました。昭和31年、国道1号線の改修・舗装を前に、神奈川県からの要請を受け入れ、箱根登山鉄道は市内電車の廃止を決定します。5月31日の営業最終日には「電車まつり」と銘打って、久しぶりに花電車が復活しました。ちなみに、一部の電車は長崎電鉄に譲られ、改造されましたが、そのうち1輛は現在も動態保存されています。



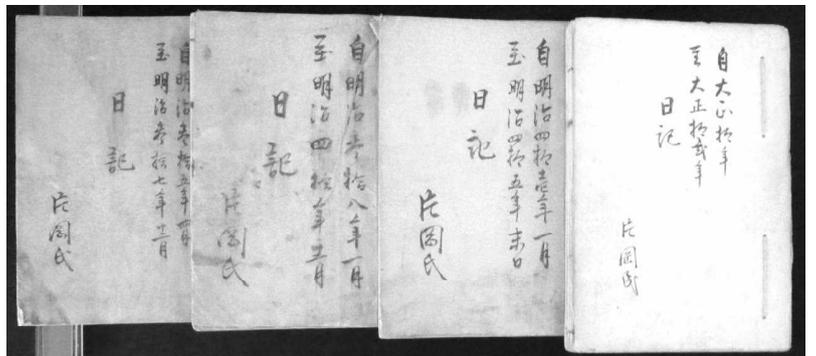
昭和27年、箱根駅伝を見守る電車（幸2丁目オリオン座前）

片岡永左衛門の日記 ～収蔵資料「片岡文書」の紹介～

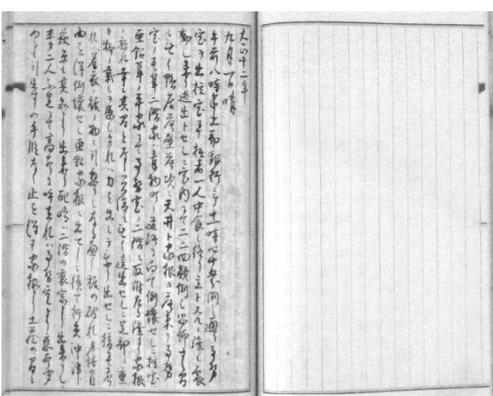
片岡永左衛門^{えいざ えいもん}は万延元年(1860)、小田原宿の本陣であり本町の町名主でもあった片岡家に生まれました。戊辰箱根戦争^{ぼしん}で小田原藩が遊撃隊と戦っていたころは、まだ8歳。明治22年(1889)、初の小田原町会議員に弱冠^{じやつかん}29歳にして当選し、同33年から同38年には、小田原町助役を務めています。このころから小田原郷土史の研究を始めており、その元になった史料は自宅に残っていた古文書であり、町役場の倉庫にあった記録類でした。それら古文書や、精力的に書写した資史料および原稿は、昭和12年(1937)小田原町図書館に寄贈され、特別集書となりました(「解題」『明治小田原町誌 上』〈小田原市立図書館郷土資料集成1〉、1975年を参照)。関東大震災で大被害を被った小田原市街では、江戸時代の城下町小田原・小田原宿を知り得る貴重な史料群となっています。

片岡文書全197点の全容は『特別集書 片岡文書解説目録』(小田原市立図書館、1967年)に詳しく記されており、その目録は図書館のホームページからも確認できます。

生前に片岡は、『足柄史料』『足柄史叢』『駅鈴余音』『明治小田原町誌』『増補相中雑誌』など郷土史研究の成果を著しています。片岡文書の大半は、それらの素材となった史料で占められています。片岡文書No.1～13と片岡文書解(No.167～171)には、江戸時代の小田原宿や朝鮮通信使の通行、小田原町住民の暮らしを物語る史料がまとめられており、参勤交替で本陣に宿泊した大名の宿割帳は片岡文書甲・乙・丙・丁(No.14～17)と題されて収録されています。そのほか、小田原宿の人馬継ぎ立てや助郷に関する古文書、片岡が集めた小田原藩主大久保家関連の史料や、藩士子孫より入手した史料も含まれています。たとえば、大久保忠真^{たださね}が藩主であった時代に小田原藩の財政再建策として実施された無尽講^{むじんこう}の記録「惣益一条」(No.114)や、小田原藩士の武道に関する見聞記「小田原大秘録」(No.125)はほかに類



を見ません。また、箱根関所絵図(No.164)、根府川関所のあった根府川村之図(No.160)、3枚の関札(No.184～186)は本陣家ならではの貴重な歴史史料といえます。



大正12年9月1日、関東地震を記録する

さらに、片岡自筆の明治35年～昭和9年の日記(No.172～179)があり、助役として対応にあたった明治35年の大海嘯^{だいかいしょう}や、大正12年(1923)からの震災復興の様子が記されています。なお、そのうち震災後の大正年間の日記については、「震災日記」と題して『小田原史談会会報』(No.160～221)に連載されました。現在は随時、昭和初期の日記が同会報に翻刻・掲載されています。

【小田原市立図書館地域資料室 利用案内】

小田原市立図書館(星崎記念館)2階。
休館日は毎月第4月曜(館内整理日)、年末年始、特別整理期間。
資料の出納・ご相談は9時～12時、13時～16時45分に承ります。
室内の資料は原則貸し出しいたしません。
* 貴重資料の閲覧：事前の閲覧申請・ご予約をお願いいたします。

【編集後記】

地域資料室前にて、写真展示「チンチン電車、国道を走る」を始めました。お越しの際には、ぜひご覧ください。